

ごみから「資源」を 回収せよ

金井 理

野村 理恵

渡辺 洋輝

目次

- 新聞記事
- 現狀分析
- 問題意識
- 政策提言

新聞記事

可燃ごみ「資源」が1割 本年度の函館市 分別徹底を呼びかけ

【函館】函館市がまとめた本年度の家庭ごみの分析調査結果によると、「可燃ごみ」として出されたごみのうち、適正なものの割合を示す分類率（重量比）は前年度比6・62ポイント減の90・32%と大幅に下がり、過去5年間で最低だった。資源ごみとして回収できる新聞紙などが全体の1割近く含まれており、市は分別の徹底を呼びかけている。

調査は市が毎年実施しており、今年は9月30日に市内5カ所で採取した家庭ごみ約200キロの内容物を、市の委託業者が調べた。

この中の資源ごみの割合は、新聞紙・雑誌類が前年度比5・13ポイント増の6・41%。プラスチック容器が同1・46ポイント増の3・11%、缶やペットボトルなどが同0・02ポイント減の0・09%。これらを合計すると、資源ごみは同6・57ポイント増の9・61%とほぼ1割に達した。

市清掃事業課は「雑誌や新聞紙は資源回収なら無料で捨てられるが、可燃ごみで出せば有料だし、燃やすための燃料もかかってしまう」と話し、ごみの分別徹底を呼びかけている。（2014/12/12 北海道新聞より）

記事要約

- 函館市で家庭の可燃ゴミ分類率が過去 5 年間で最低の値。
- 可燃ゴミのうち適正なものの割合は 9 割ほどで、全体の 1 割近くが資源ゴミであった。
- 同市はゴミの分別徹底を呼び掛けている。

現状分析

函館市におけるゴミ問題

人口…279,127人（北海道で3番目）

1人1日当りの家庭ごみ排出量…721g

家庭ごみの年間排出量…64,289t

ゴミのリサイクル率…**15.5%**（全国平均20.6%）

多いごみ排出量と低いリサイクル率

改善の必要性

7

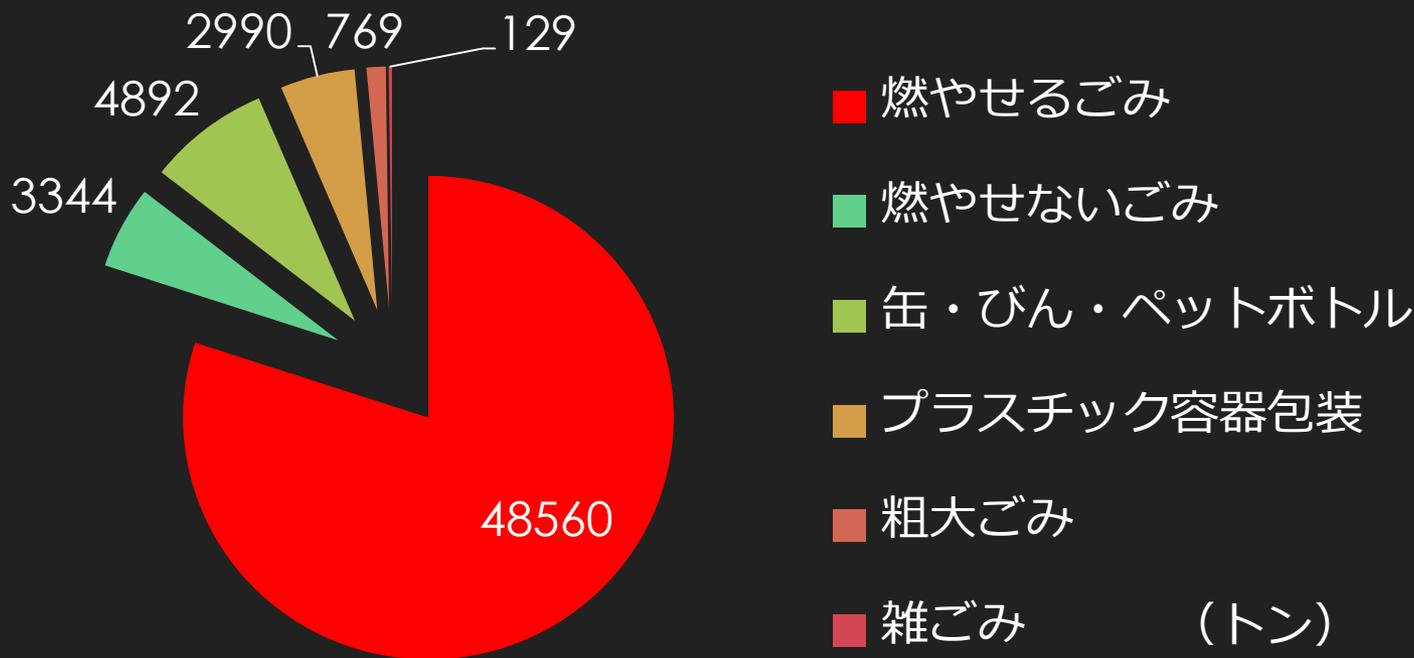
函館市における リサイクル率の目標値と実値の推移

	H17	H22	最新
北海道全域	17.2%	22.8%	23.8% (H23年度時)
函館市 H17年度目標値	32.0%	34.1%	36.1% (H27年度時)
函館市 実際	32.0%	21.5% (H21年度時)	15.5% (H25年度時)

家庭ごみの分類方法

- 燃やせるごみ * 有料
- 燃やせないごみ * 有料
- 缶・びん・ペットボトル * 無料
- プラスチック容器包装 * 無料
- 粗大ごみ * 有料
- 雑ごみ * 無料
(臨時ゴミ・乾電池等) (市で回収できないものは有料)

家庭ごみの分類別年間推定排出量 (H26)



ゴミの分類方法

- 燃やせるごみ
- 燃やせないごみ
- 缶・びん・ペットボトル
- プラスチック容器包装
- 粗大ごみ
- 雑ごみ（臨時ごみ・乾電池等）

計6種類の行政・許可業者回収



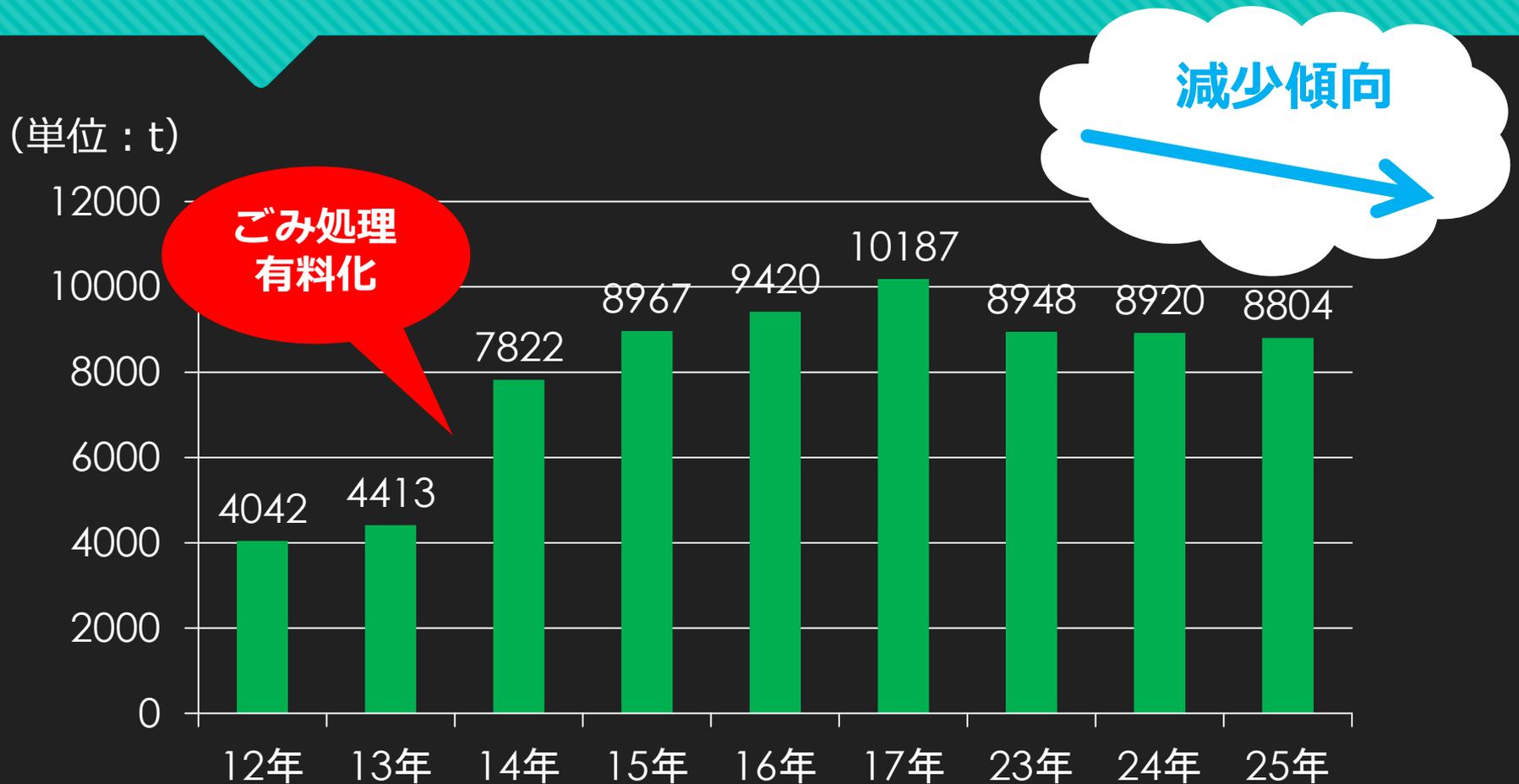
集団資源回収

集団資源回収とは

町会・自治会・老人クラブ・子ども会などが、回収品目・回収日時・回収方法などを決めて集め、その資源物を資源回収業者に回収してもらい、引き取ってもらう**回収活動**のこと。

《対象》新聞、雑誌、段ボール、びん、缶、衣類等

集団資源回収量の推移



なぜリサイクル率が低下しているのか…

<大分市の意見>

焼却処分後の焼却灰について、厳しい財政状況の中で全量を資源化できず、一部を埋立処分していることが一つの要因であると考えられます。

また、家庭における**分別意識の低下による資源物回収量の減少**や、**有価物集団回収運動に対する住民の協力度の低下**による回収量の減少も一つの要因ではないかと考えます。

問題意識

問題意識

各家庭における分別意識の低下



集団資源回収協力度の低下
リサイクル率減少



市民のごみ分別・資源回収協力を行うことに対する
インセンティブをあげる必要性

政策提言

政策提言

①可燃ごみの料金の値上げ

②資源回収ポイント制度

料金値上げの理由

函館市のごみ袋料金（函館市HPより）

	5リットル袋	10円
	10リットル袋	20円
	20リットル袋	40円
	30リットル袋	60円
	40リットル袋	80円

可燃ごみを減らそうというインセンティブが維持できていない。

料金値上げのメリット

- 可燃ごみを減らそうとするインセンティブが上昇



可燃ごみから資源ごみにまわそう

問題点

現在、市民にとってプラスとなる面が存在しない



函館市によると…

函館市の分別問題において、可燃物の中で資源として回収されるべきごみの量の6.5割近くが、集団資源回収で回収対象となっているもの。

「資源回収ポイント制度」 を同時施行

資源回収ポイント制とは？



集団資源回収を行っている団体と協力し、
その回収量に応じて、可燃ごみ袋と交換できるポイントを与える。

ポイントの費用は可燃ごみの値上げで得られた資金を回すことで補う

政策効果

料金値上げ……………マイナス面のみ発生

資源回収ポイント…特典発生

同時に行うことで

分別しようというインセンティブの更なる向上が見込める

試算

今回の政策の目標として、可燃ごみに含まれている1割の資源ごみのうちの、半分の資源としての回収を目指す。

↓

現在の可燃ごみ量.....48560トン

資源ごみ量.....8804トン であるとする。

平均して一トン当たり4000リットル分の袋が必要になる

→388480000円可燃ごみ代として回収している

試算

48560トンのうち、約1割である4800トンが資源ごみとしてまぎれていると仮定すると、

その半分である2400トンを資源ごみとして回収することが目標であるので、目標値の時に、可燃ごみ料金の値上げと資源回収のポイントとが釣り合うように設定。

1リットル2円⇒3円に値上げし、可燃ごみが2400トン削減できたとすると、553920000円を可燃ごみ料金として回収することになるので、165440000円分のポイントが必要となる。

資源ごみも2400トン増えると仮定するので

資源ごみ1キロあたり約15円分のポイントとなればよい計算となる。

政策のまとめ

- ・ 可燃ごみ代金を1リットル2円⇒3円に値上げ
- ・ 資源ごみ100グラムあたり1ポイントを付与し、
2ポイントを可燃ごみ袋1リットルとして交換

政策のまとめ

- 可燃ごみ代金が増えることで
可燃ごみを減少させるインセンティブが増える
- 資源回収ポイントによって
資源回収に協力するインセンティブが増える

<問題点>

- ・ 市民の手間がかかることによる住民減少の可能性
- ・ 400余りある資源回収団体との連携の手間コスト

参考文献

北海道新聞

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/chiiki2/579837.html>

函館市HP

<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014010900616/>

北海道庁HP

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>

平成26年度函館市一般廃棄物処理実施計画

<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014011000469/files/jissikeika ku.pdf>

『「家庭ごみ有料化」についての意見の要旨と市の考え方について』

<http://www.city.oita.oita.jp/www/contents/1325035452748/simple/comm on/other/4f447144004.pdf>